

# 平成30年度 JA仙台環境保全米栽培基準(特別栽培米・ひとめぼれ・ササニシキ・つや姫)ごよみ



## 基本方針

- ◎人と環境・生き物にやさしい農業を、生産者と消費者が一体となって実践致します。
- ◎未来の子供たちへ豊かな水田環境を引き継ぎ、美味しく安全・安心の見える農業を実践します。

(農薬・化学肥料節減栽培当地比50%減)



前年10月~2月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月		
			上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
		●土づくり	●種粉浸漬	●播種		●田植え	●分けつ開始		●有効分けつ 終止期		●幼穂形成期	●減数分裂期		●出穂前期	●穂揃期							●成熟刈り	

## 土づくり・施肥(10a当り)

### 1. 有機物

完熟堆肥を施用する。稲わらをすき込む場合は、年内の早い時期に行う。

### 2. 土づくり肥料

土づくり肥料	とれ太郎	60~80kg
	混合りん肥新3号(砂)	140~200kg
	けい酸加里プレミア	40kg
	アグリキープ21J-K	30kg
	マグホス	20kg

※化学窒素を含む腐熟促進剤は使用しない。(フジユクエース、石灰窒素等は使用しない)

### 3. 基肥

肥料名	施肥量	成分(%)				
		N			P	K
		化学窒素	有機態窒素	窒素合計		
いいね有機一発290	40kg~50kg	3.00	3.00	6.0	4.5	5.0
みやぎ米有機一発499	35kg~40kg	3.24	2.36	5.6	3.6	3.6
特裁くん240	40kg	2.4	2.4	4.8	5.6	4.0
ヘルシーライス有機2号	60kg	2.1	2.7	4.8	4.8	3.0
特別栽培対応イオウコート	40kg~50kg	2.95	30.05	6.0	3.0	2.0
環境保全米用フレーパーペースト	40kg~60kg	3	3	6.0	2.4	1.8

※土壌条件により、加減して下さい。 ※施肥基準早見表にて、ご確認ください。

### 4. 追肥

- ※育苗期肥料・基肥・追肥で、化学窒素施用量を3.5kg以内とする。
- ※食味をよくするため、出穂後の追肥は避ける。

## 育苗・田植・除草

### 1. 育苗 種子は全量更新すること。

薄まきで健苗育成(120~150g/箱・催芽粉)

使用資材	種粉消毒	温湯消毒(農薬成分無し)
	カビ・細菌病・ばか苗対策	タフブロック(農薬成分無し)(人工培土のみ使用)種もみ10kgに対して100g
	立枯れカビ対策	タチガレン液剤①(1回のみ)

※タチガレン剤は、粉剤か液剤を選択して下さい。

### 2. 田植

- 田植時期 5月15日を目安とする。
- 植付本数 3~4本とする。
- 栽植密度 18株/m<sup>2</sup>以下とする。(60株/3.3m<sup>2</sup>)

### 3. 除草

	薬剤名	使用量/10a	使用時期	一剤を選択
初期剤	ソルネット1キロ粒剤①	1kg	植代後~移植前7日又は、移植直後~ノビエ1葉期(3葉剤は同一成分です。)	一剤を選択
	エリジャン乳剤①	500ml		
	エリジャンジャンボ①	300g		
初中期発剤	ゼータハンマー1キロ粒剤②	1kg	移植時。移植直後~ノビエ3葉期。但し、移植後30日まで。	一剤を選択
	ゼータハンマーフロアブル②	500ml	移植後3日~ノビエ3葉期。但し、移植後30日まで。	
	ゼータハンマージャンボ②	40g×10		

- ※水田畦畔用の除草剤散布はできません。
- ※初期除草剤が使用できるようになりました。

## 病虫害防除

### 1. イネミズゾウムシ★葉いもち、カメムシ(穂揃期)同時防除(箱処理剤)

薬剤名	使用時期	使用量
Dr.オリゼスターフル箱粒剤OS②	移植当日	50g/箱

### 2. 穂いもち・稲こうじ病・紋枯れ病の防除

薬剤名	使用時期	使用量
コラトップ1キロ粒剤12①	出穂前30~5日	1kg/10a
Zポルドー粉剤DL(農薬成分無し)	出穂前20~10日	3kg/10a
バリダシン粉剤DL(農薬成分無し)	収穫14日前	3~4kg/10a

※共同防除散布の方は、重複しないようご注意ください。

### 3. カメムシ類の防除

薬剤名	使用時期	使用量
スターフル粉剤DL①(粒剤、液剤も選択できます。)	出穂時から穂揃期	3kg/10a

※共同防除散布の方は、重複しないようご注意ください。

※病虫害の多発生した場合は、農協に相談して下さい。

※農薬散布時は、周辺作物への飛散に注意して下さい。

※上記薬剤名○の中の数字は農薬の成分数です。

## 出穂後の水管理、収穫・調製作業

### 1. 出穂後の水管理

- 出穂後は、灌水管理を行い、登熟後期まで根の健全化に努め登熟向上を図る。
- 落水は出穂後25日以降とし、早期落水はしない。

### 2. 収穫作業

◎積算温度を勘案し、適期刈取りを励行する。(出穂後40~45日を目安とする。)

品種名	出穂後の積算気温	出穂後の日数
ひとめぼれ	940~1,100℃	40~45日
ササニシキ	930~1,150℃	45~50日
つや姫	1,000~1,200℃	45~50日

### 3. 乾燥作業

◎乾燥機を使用し努めて低温乾燥とする。水分は14.5~15.0%とする。

### 4. 調製

ライスグレーダーの網目は1.90mmを使用し、整粒歩合80%以上の1等米に仕上げる。

### 5. 異品種混入対策

品種切り替え時の作業確認・清掃は、JA仙台水稻GAP項目に従い、複数人数で確認し、記帳提出する。